



李仙得建議書譯草

109
A4412



414
A 4452



第四十二号

癸端

今内外政務上ノ論議ニ就テ此ニ樺太島ノ事ヲ
 論セントス蓋シ此島ハ日本ノ夕メ一大患害ヲ
 ルモノナリ何ントナレハ則チ拳テ魯西亞国ニ
 付與セントセハ国内人心ノ動搖ヲ醸シ後テ英
 国ノ猜忌ヲ起サシ必然ナルノミニアラサル
 ナリ又之ヲ日本ニ於テ保有セントセハ必ス魯
 国トノ間ニ葛藤ヲ生スルニ至ルヘシ抑此景況
 ニ於テ若シ日本ノ進歩半途ニ姑息スル片ハ之

大正十一年四月
隈侯爵郵寄贈

大藏省

カ為メニ此患害ヲ避クル能ハサルノミナラズ
却テ嚴重ナル謹慎ヲナスヘキ後患ヲ増加シ且
專要ナル豫防ヲナスヘキノ艱難ヲ蕃殖スヘシ
而シテ方今ノ目途ヲ以テ永ク将来ニ施行セシ
トセハ必ス其国害ヲ生スル日一日ヨリ多クハ
ヘシ

樺太島ノ事ニ因テ之ヲ觀レハ日本ハ決シテ彼
ノ西國ノ心ヲシテ相満タシムルヲ得ス是此事
ニ關係スル利害ノ道ニナラサレハナリ何トナ
レハ若樺太ヲ擧テ魯國ニ讓ル時ニ彼ノ東洋ニ

於テ他國ノ海軍盛大ニ至ルヲ拒ミタル英國祖
先ノ目途ニ反ス又日本ニテ此島ヲ保有セント
スル片ハ後來亞細亞洲ニ事変アルニ及テ其親
睦ヲ仰キテ之カ應接タルヘキ一大強國則魯國ヲ
捨ツルニ至レハナリ殊ニ該島ハ魯西亞ノ為メ
ニハ要用ナリト虽モ日本ニ於テハ後來格別ノ
利益タラサル土地ヲ讓渡シノ代價トシテ魯國
ヨリ相当ノ償金ヲ領收スヘキ機會ヲ失フヘシ
千八百五十八年第七月二十九日江戸條約第
二條ノ趣ニ就テ樺太一件ニ付和解ノ事ノ日

本政府ノ依頼ニ依リ大統領ニ於テ媒妁人トナリ
千八百七十年在日本合衆国公使「テロントク」氏
并ニ華盛頓政府ト在「セントペール」トニスボ
ク「合衆国公使トノ間種々往復ヲ重子タル其
結末ニ及テ魯国ニ於テハ合衆国ノ媒妁ノ嚴
ニ拒ミタレ氏猶合衆国政府ニ就テ日本
如何ナル方法ヲ以テ該嶋ヲ讓渡サン事ヲ承
引スヘキヤノ見込ヲ寫ト取ルサニ事ヲ乞ヒ
且現実相当ノ償金ヲ出サレ「ノ意ヲ述タル
由此往復ノ情實ハ未タ日本政府ニ充分通達

アラサル旨ヲ或ル人語レリ然レ氏此事件ニ
係ルノ書類ハ合衆国公使館ノ文庫ニ備アリ
テ千八百七十年ノ往復書第八十五号ヨリ此
事件ニ涉リシ初メト聞ケリ

第二

該島ヲ魯西亜ニ付與スヘキ所以如何ノ事
「アニワ」港ノ事ニ因テ初メテ魯国ニ送リシ日本
使節ハ竹内下野守松平石見守ヲ巨魁トシテ千
八百六十二年中日本ヨリ「セントペール」トニスボ

ルクニ癸セシメリ当時談判スヘキ使命ノ趣ハ
第一五十度ヲ以テ兩國ノ境トシ「アイノ」人種ト
スメレンクルル人種トノ間ノ區合ヲ以テ其分界
ヲ立ル事第二ニハ島中各部銘々ノ版圖ニ入り
シ部分ハ其管轄國ノ官吏之ヲ統理セシ事ハ示
談セシカ為メナリ然レ氏魯西亞ニ於テハ四十
度以北ハ「アイノ」人種ノ居ヲ占メス且島中適宜
ノ境界ト定ムヘキ根據ナキヲ辭柄トシテ此談
判ヲ拒ミ最前下田ニテ仮ニ取結ヒタル條約ニ
基キ從前ノ通り百事ヲ據置キ双方ノ國民互ニ

大 雜

雜居ヲ許サシテ主張セリ竹内并ニ其同僚ニ
於テモ魯國ノ論議ハ事ニ托シテ辭柄ヲ設ケ終
ニハ全島今日ニ至テハ此意ヲ隱サ不由既ニ此
事件ニ付佛國政府ヘ通信ニ及ヒ音
ヲ同國使ヨリ傳聞セリ魯國ノ説ニテハ若魯
國ニテ談島ヲ取ラサレハ英國ニテ取ルヘシト
云フヲ蚕食セシトノ意アルヲ洞察セリト雖モ
其土地ノ実況ヲ知ル充分ナラサルヨリ敢テ之
ニ反論スル能ハス故ニ實地検査ノ上更ニ會ス
ヘキ日マテ此談判ヲ延ハシテ使節ハ日本ニ歸
朝セリ
此使節日本ニ歸朝ノ時ニ當リテ事故アリ故ニ

大 雜

政府ノ希望セシ如ク遠ニ再度ノ使節ヲシント
パートルスボルクニ送ル事ヲ得サルノ形勢ニ
立至リ魯国ニテハ此因循ノ久シキヲ好機會ト
シ樺太島ニ於テ廣大ナル殖民地ヲ開ケリ而メ
千八百六十七年ニ至リ小出大和守石川河内守
ヲ魯西亜ニ送リシト虽モ既ニ五年間ノ怠リヨ
リ生セシ損害ヲ償ニ事當時甚々時機ニ後レ魯
国ハ其所有トセシノ條理實ニ強ク千八百六十
二年ノ條約書ニ從テ既ニ着手セシ土地ハ其国
ノ所屬タルヲ主張シ且島中未ニ着手セサル

部分ハ向來兩國ハ人民互ニ殖民ヲナシ以テ所
屬トナスヘキ旨ノ談判アリタリ於此小出并ニ
其同僚熟議シテ曰ク今日及フ所ノ議論ハ悉ク
尽セシト虽モ實況魯国ノ所屬ハ五十度以南ニ
蔓延セリ今日マテ談判ヲ延引セシハ則チ我國
ノ過チナリト依テ魯西亜ニテ發言ノ趣旨ヲ基
本トシ條約ヲ結ヘリ實ニ千八百六十七年中十
リ^{近世史略}中千八百五十三年ヨリ
千八百五十九年ヲ見ルニ
此條約ハ大ナル過失ナリ其故ハ確乎タル異存
ヲ述フヘキ魯国ノ蚕食ヲ公然承認セリト謂ヘ

キノミナラス魯国ヨリ該地ヲ開拓スルハ最モ
便益ナリト考フル中ハ日本ヨリ之ヲ反論スル
ノ條理ヲ失シ後來多分ノ土地ヲ所屬トスルノ
機會ヲ彼ノ国ヘ與ヘシモノニシテ終ニハ全島
ヲ蚕食スルニ至ルヘシ是大ニ使節ノ豫防スレ
カリシ所以ナラスヤ

今日魯国ヨリ盛ニ島中一殖民スルノ條理ハ全
ク彼ノ輕卒ニ取結ヒタル條約書ヨリ生セシモ
ノナリ而メ此條約ヨリシテ豫テ彼国ニ於テ望
ム所ノ好機會ヲ投與セシト謂フモ可ナリ

今日ノ形勢ニ觀テハ日本ニ於テ魯国ノ勉強并
ニ企計ニ並立スルヲ得而メ雜居條約ノ趣旨ニ
隨ヒ双方ニテ為スヘキ明白ナル義務即チ一般
ノ款ニ對シテ双方ノ所屬地ヲ防禦スル如キノ
義務ヲ盡スニ非サレハ徒ニ魯国ヲシテ強テ日
本ノ如ク之ヲ怠惰セシムルヲ得ス此義務タル
ヤ固ニ重任ニシテ初メ之ヲ受サルノ日豫メ日
本ニ於テ之ヲ熟考シ得ナリシ所以ナリ
又兩國ノ人民島中一雜居ニ同權ヲ有スルト雖
モ兩國政府ノ所分外出テ島内ニテ人民設立

スル一般ノ市政取締規則其他百般ノ事ニ付日
本人ハ少負ニシテ恐言ヲ為スモノ些々タルハ
之故ニ魯人ハ屢土地ノ主長タルノ形情ヲ顯ハ
スニ至リ必ス難居日本人ノ意ヲ損傷シ易シ而
又日本人ニ於テハ此意ニ及シテ不均シク同權
アレハ無議ニ發言ノ權ヲ有スルヲ知り互ニ忌
諱ヲ抱クニ至リ終ニハ難居人ノ間諸般ノ葛藤
ヲ生シ從テ地方ノ官吏ニ於テ双方ノ意ヲ満ス
シメテ之ヲ鎮壓シ得ヘカラサル爭鬪ヲ起スヘ
シ而メ常ニ弱者ノ胸中ヲシテ強者ヲ忌嫌スル

ノ念慮ヲ起サシムルノ外他ナカレハ其甚シ
キニ至テハ互ノ交際立カタキニ及フ必セリ此
時ニ方テハ双方ノ政府ハ永ク局外中立ノモノ
トシテ之ヲ傍觀スルヲ得サルヘシ
譬ヘハ兩人ノ者産業上ニ就テ互ニ盟約ヲ結ビ
シニ事故アリテ信義ヲ失シ爭論ヲ起サレトス
ルニ當テハ其情實ニ於テ頓ニ和解スヘカラサ
ルモノナリト雖モ互ニ永ク和親ヲ保タシ事ヲ
欲スル中ハ其利ヲ分賦スルノ外他ノ策無シ今
日樺太島ノ事件ニ於ルモ亦魯西臣ト日本トノ

間斯ノ如キノ形勢ナル事明白ナリ若此争論ノ
根源ヲ除カサレハ将来兩國間ノ交際如何ナル
ハキヤ夫誰レカ敢テ之ヲ豫言スルヲ得ニヤ若
夫レ日本今日ヨリ實ニ二三十年ヲ経ルニ及ニテ
ハ或ハ強大ナル隣國ト相抗スルヲ得ルヲ
ヘシト虽モ今日ニシテ以テ之ト對峙抵抗スル
ヲ得ヘシトナスノ盲目ハ恐クハ一人モ無カル
ヘシ而メ今若兩國間ニ争鬭相起ル片ハ日本ニ
於テ樺太島ヲ失スルニナラス從テ全世界ノ
簸弄ヲ受クヘキノミ

斯ノ如キ形勢ニ至テ依然喘息ニ涉ル片ハ蓋シ
日本ノ為メ自ラ滅亡ヲ招クナリ殊ニ今日ニ及
ニテ只所及ノ有益ナル約束ヲ以テ諒島ヲ付與
スルノ外敢テ良策アルナシ謂フヘシ國家ノ
政務上重大ノ一事件ニ屬セリト加之此事ヲ處
分スル毫モ緩慢スヘカラス若シ誤テ遲疑ニ及
ハ、日本ノ為メ大害ヲ發スヘシ何ントナレハ
則チ方今魯國ニ於テハ盛ニ諒島ニ植民シ攷々
トシテ島中ノ居住人日一日ヨリ増加ス是ニ於
テハ漸次土地ヲ失フモノ亦日一日ヨリ多クニ斯

ノ如キ形勢ニシテ今日ヲ経過セハ数年ヲ待タ
スレテ日本ヨリ付共セシトスルノ地ナク從テ
領收スヘキ贖金ヲ得サルヘシ況ヤ千八百六十
二年并千八百六十七年中幕府ニ於テ釀成シタ
ル過失ヲ償フノ期ナキニ於テヤ

第三

内地人民ハ樺太島ノ讓渡ニ及スルノ議如何
ノ事

日本ニ於テ西洋各国ノ内何レノ国ヲ問ハス日

本ノ直隣地ニ樺^ク所ヲ領有スルヲ防カントス
ルノ意ハ予カ輒ク了解スル所ナリ然リ而シテ
日本ハ島嶼多クシテ固ヨリ進入スルニ易ク外
ノ寇敵ノ為メニ略取セラハルノ害最モ多シ大
島ノ内深淵ナル碇泊所及ヒ港口等多數アリテ
日本海軍ノ為メ之カ避難所ヲ為スト虽モ亦敵
軍ノ上陸ニ便アリ其他今一事軟弱ノ原由アリ
日本ハ「^キリシヤ」或ハ「^シリ」ヲ除クノ外歐羅
巴洲中ノ島嶼或ハ半島ニ於ルヨリモ山岳甚々多ク
且敵ノ略取ニ得ヘキ樹木繁茂セリ故ニ一タヒ

寇敵ノ所有トナルハ皇国内防禦ノ為メ此地ヨリ彼地へ送ルヘテ兵隊ヲ其林中ヨリ炮撃スルヲ容易ニシテ之ヲ防禦スル事亦難カラス日本ハ四嶋ヲ合セテ一国ヲナク所謂蝦夷日本九州四国是ナリ而シテ此島ヲ合シタル全国ノ方里七千マイルノ内海岸千七百七十里アリ然ルハ平面六マイルニ付海岸凡一マイルニ当ル日本方今通航ノ形勢ニ於テ此長線ヲ防禦スルハ實ニ難キ所ナリ及令東京大阪鹿見島及ヒ下ノ関ノ如キ最モ肝要ノ地ハ防禦スルノ術ヲ

得ルモ国内数百里ノ間ニ兵隊ヲ分配セサルヲ得ス蓋シ寇敵ノ海軍一々日本海ニ侵入スルヤ即チ小島ハ大池トノ通信ノ道ヲ絶シ各孤立スルニ至リ大島ト雖モ亦各一島毎ニ略取セラレ時ハ從テ一般ノ音信ヲ絶ワニ及フヘシ下ノ関及ヒ其他ノ地二三ヶ所ヲ略取セラルニ當テハ英國ニテテームス并ニ土耳格ニテホムホムスニ兵ヲ徵集スル如ク日本ニ於テハ全国ノ兵六ヶ所ニ徵集シ防禦ノカヲ合スル等ノ事ハ固ニ難カルニ加之日本ノ漁業ハ衰

微し又寇敵策ヲ得テ内地ニ進攻スル時ハ輒チ
田地ヲ破却スル事ヲ得ヘシ此時ニ當テ日本人
ハ從來専ラ米及ヒ魚等ヲ以テ食料トナシテ赤
タ綿羊ヲ所持スルモノアラス只僅ニ牛豚ヲ所
持スルノミナシレハ直チテ餓死ノ景状ヲ顯ハス
ヘシ

今此不幸ナル地勢ニアル日本ノ最モ恐懼スヘ
キ国ハ何レナリヤ敢テ之ヲ説明スヘシ
現今ニ因テ之ヲ考フヘハ支那并ニ

^{支那注}是今日ニ於テ改革ノ有無ヲ見越シテ云フニ

アラス若シ支那方今ノ改體ヲ改正セハ則チ
強國トナルノミナラス外征ノ勢ヒニモ立至
ルヘシ故ニ日本ニ於テハ今日豫メ其備ヲ
サ、ルヘカラサルノ時ナルヘシ今日日本ニ
於テ其備ヲ為サハ亞細亞洲ノ国民ニ就テ忍
ハ、処毫モ無カルヘシ何トナシレハ日本人
ノ勇氣及ヒ愛國心ヲ以テ國家ノ防禦ニ適當
スル備ヲ設クハ片ハ倭令亞細亞洲人民ヨリ
攻撃ヲ受ルトモ必勝タル疑ヲ容レサレハナ
リ

朝鮮ハ敢テ顧念スルニ及ハス且亞米利
加洲ヨリハ蒸氣船ニテ来ルモ二十日歐羅巴州
ヨリハ四十五日ノ遠路ナリ故ニ新古世界ノ兵
隊ヲ以テ攻撃セラル、ノ憂ナカルニ候令此
兩洲中ノ一國日本ヲ攻撃スルノ兵力アリト雖
モ種々ノ事故アリテ其事ヲ果ス能ハサルヘシ
既ニ佛國ノ人民ハ他國ニ出ルヲ忌ミ自國ノ
ヲ愛スルナリ是故ニ國務上ニ因テ之ヲ見ルキ
ハ亞弗利加洲ノアルゼリヤヲ除クノ外他ノ所
屬地ノ内ニテ佛國ニ利益ト成ルモノアルト無

シ「サイゴン」安南ヲ版圖ニ入レシハ千八百五十
八年支那ト戦争ノ後東洋ニ於テ英國ノ威勢ト
並立セシカ為メ同所ニ屬地ヲ有シ其用途ヲ達
セントノ意ニ出テ、素ヨリ勢ヒ止ムヲ得サル
ニ由ルノミ而メ今既ニ其用途ヲ達シタレハ佛
國ニテハ將來敢テ餘剩ノ地ヲ望マサルヘシ何
トナレハ佛國若シ此宿意アラハ先年中朝鮮ト
争鬪起リシノ日該國ヲ略取スヘキノ好機會至
リシヲ必ス失ハサリシナルヘシ又獨逸國ニ於
テハ今日ニ至ルマテ東洋ニテ廣大ノ領地ヲ得

トスルノ意ヲ發表セシトナシト鯨毛蓋東洋
中海軍碇泊所一之所ヲ得ント欲セシナルハ
曾テ此目途ヲ遂レト欲セシヤ千八百六十九年
及ヒ千八百七十年中臺灣并ニ^{澎湖}スカトハ
事ニ就テ非常ノ探索ヲ爲シ且其前^{チューサー}ニ支
内ヲ所屬トセシトシテ大ニカヲ尽セシノモ若シ
獨逸国ニ於テ果シテ亞細亞洲中ニ領地ヲ廣ケ
ント欲セハ千八百七十一年佛国ト和睦條約取
結ノ時^{コリネン}チヤイナ^{安南}ヲ讓受ノ約諾ヲ爲ス
カ或ハ和睦ノ後ト魚毛獨逸国ニ於テ佛国ヨリ

受取ルハキ軍資償金ノ内ヲ以テ該地讓受ノ示
談ニ及ヒシナルハシ然ルニ此示談ニ及ハサル
ハ獨逸国ニ取リテ其土地廣大ニ過クルニ由シ
ルナルハシ
孛国ニ於テ支那ノ衰微ヲ勘考シ他日支那ニ
事アリテ国ノ乱レニ至ルノ機會ヲ待テ而後
一港ヲ得ント相窺フハ必定ナリ同国ニテハ
^{バヤリ}ニアル^{ペイホー}河ニ添フ一港或ハ其
以南ニ在ル他ノ場所ヲ望ムナルハシ然レハ
其機ニ當テハ孛国ノミナラス其他各国ニ於

テモ亦兼テ得ントスル機會ヲ助クルナルハ
 東洋中猶「フ」リピン諸島ヲ有スル西班牙「リ」
 第五世并ニ「フ」リ「リ」二世王ノ
 時代ハ既ニ過去ト成リ後世再ヒ其時代ノ盛ナ
 ルニ至ラサルヘシ又葡萄牙ニ於テハ「リ」カ「リ」及
 ヒ和蘭ニテハ南方ノ諸島ヲ布スルト雖モ亦西
 班牙ノ形勢ト同轍タルヘシ唯恐ルヘキハ魯西
 亞ト英吉利ト兩國アルノミ

第四

魯西亞ノ樺太島ヲ要スルノ義如何ノ事
 上「リ」ベリヤ支那及ヒ滿州地ニ於テ魯國ノ領地ヲ
 廣ムルハ果シテ亞細亞洲中一魯國ノ威權ヲ振
 ハント欲スル大志ヲ證スルニ足リ「リ」ト及
 ヒ「リ」ニコライスキニ樺港ノ設ケアルハ蓋該地ヲ
 根拠トシ漸次日本ノ地方ヲ征服センノ意ニ
 テ樺太島ヲ所屬トセシトノ企望モ亦此意ニ
 タリ且蝦夷地ヲ襲フノ機會ヲ窺ハシカ為メ賢
 才ノ名アル公使ノ一人「リ」別「リ」「リ」ヲ永ク箱館ニ在

留セシメ又該地ノ人民ヲシテギリキ宗ニ引
導セシメントシテ數年間傳教師ニ尽力セシメ
以テ略取ノ際ノ助カヲ計リ加之常ニ朝鮮ヲ窺
ヒ魯國ニ便宜ノ機會ヲ待テ必ス直ニ彼國ヲ
略取シ尋テ彼處ヨリ日本ノ本地ニ進入スヘシ
ト謂フハ一般ノ人口ニ屢論スル所ナリ
予カ意ヲ以テ之ヲ考フレハホタ此説ノ確實タ
ルノ証跡アルヲ見ス魯西亜ハ太平洋海岸ニ於
テ日本ノ独立或ハ威カヲ壓制スルニ充分ナル
兵勢ヲ保有セス黑龍江地方ヨリ魯國都府ノ隔

ル里數ト其僅カナル住民并ニ此辺ニ陸軍
ヲ充備スルノ費用トヲ推考スルハ片ハ彼令略取
セントノ謀畧アルモ魯國ハ數百年ヲ経ルニア
ラサレハ日本ニ對シ何事ヲ一為シ得ヘカラサ
ルノ確証數多アリ

魯西亜ハ此地方ニ於テ其企望ヲ達セントスル
ニ都府ヨリ格外隔リ内至四千マイルアリテ日
本ハ自國ニアリ且英國ノ印度ニ擴張スルヲ窺
ヒ之ヲ防カシ為メ亞細亞西部ヲ望ムノ外ニ尚
魯國ニテ亞細亞東部ニ所領ヲ真ニ得ニト欲セ

ハ豈今日マテ進軍ノ策ヲ因循スヘケシヤ必ス
 防禦ノ備アラサル朝鮮ヲ目ニ版圖ニ入レ然シ
 ニ攻撃并ニ防禦トモ「ボシエツト」或ハ「コエラ」
 キニ優レル港ロヲ得ヘカリシカリ加フルニ日
 本ヲ侵掠シ征服ノ後外寇ヲ防キ此国ヲ保有セ
 ニニハ朝鮮ヲ略取スルヲ以テ第一ノ順序ス
 一ニ
 英国及ヒ日本兩國ノ地勢ト魯國ノ地勢トヲ比
 較シテ考フル片ハ東洋ニ於テ為スヘキ魯國ノ
 前途ハ明白ナルヘシ倭令禪太島ノ一事又ヒ支

ト論アリシ土地ノ事ニ付テハ大ニ疑ヒ生
 スルノ根拠アリト雖モ世界ノ地圖ヲ一見スル
 時ハ唯事實要用ナル地ヲ除クノ外魯西亜ノ大
 目的ハ亞細亞北部ニ於テハ其及テ所ニ從テ所
 領ヲ廣ケンテヲ避レトノ前途ナルヘシ魯國ニ
 テ「コエラ」ヤヲ望ミシハ滿州地ニ在ル海軍屯集
 所ト食料及ヒ兵隊ヲ進發スル内地トノ間ニ氣味
 ヲ通セシカ為ナリ而シテ魯國ニ於テ必ス滿州
 ヲ所有セサルヲ得サルノ故録ハ英國ノ印度ニ
 於ケルカ如ク向來歐羅巴各國ノ容易ニ略取シ

得へキ弱国ノ人民ヲシテ此海軍屯集所ノ周圍
ニ居住セシメハ彼令彼レノ海軍所ヲ保有シ難
ク至ラサルモ實ニ其地位最危難ノ基ナレハ
ナリ是乃チ海軍所ヲ得レ事ヲ希望スルノ如
シテ敢テ領地ヲ欲スルニアラス此海軍所タル
ヤセハステポトル并ニゴロウレスタトシ如
ク堅固ナル者ヲ聞及シト虽モ未タ魯国ニテ東
洋中ニ希望スル出路ニアラス彼令右海軍所ヲ
所有スルト虽モ欧羅巴中ノバールツク海及ヒ
黒海ニ於テ炮臺及ヒ海軍所ヲ有スルト同般ニ

更ニ国勢ヲ振フニ足ラスバルテイツク海
及ヒ黒海ニアル海軍所ノ如キハ一ヶ所ハ那
威ト丁抹トノ間ニアル「スカヂラツク」地名
及ヒ「カテガ」同上今一ヶ所ハ欧羅巴土耳格
ト亜細亜土耳格トノ間ニ在ル「ダハチ」
ノ堅固ナル関門ニテ閉鎖セラレタリ此地
位ヲ脱センニハ大洋ニ自由キ出入ニ何時
ニテモ事アルニ当リ敵国ノ領地并ニ貿
易ヲ害スル為メ海軍ニ兵ヲ得へキ
港ヲ所有セサルヲ得ス

此形状ニ於テ一般ノ難事ハ姑ク置キ日本
ヲ征服シ得ヘキモノト見做シ此国ヲ降
服セシ後猶戦闘ヲ常トスル日本人氏ヲ
管轄スルニ於ケル一難事ヲ思考セサ
ルヲ得ス若シ之ヲ顧ミレハ日本ノ如
キ困弊ノ領地ヲ有スルハ魯国ノ為
メ却テ益ナキナリ其隣国ニ獨立且
強国アルハゴホシエツトシニゴライスキ
及ヒ「ア」ニワレ港ニ在ル魯国海軍屯集
所ノ保護及ヒ勢援トナルナリ故ニ双方

ノ信義ト両全ノ策トヲ根基トシ和親ノ
盟約ヲ為スハ魯国ノ為メ最所要ナル
ヘシ

東洋ニ於テ威カヲ振ハント欲スル魯国ノ目途
ハ早晚英国ト其威カヲ相競ハントスルニアリ
故ニ魯国ノ日本ト共ニ国利ヲ均シク計ラント
欲スルモノハ唯日本ヲシテ英国ノ勢威ノ下ニ
制壓セシメサラン「ア」ヲ欲スルノニ是以テ魯国
ニ於テ日本ノ改権ヲ握ル人々等カ件ノ月途ヲ
以テ進行スルノ意ヲ識認スル時ハ速ニ当国ニ

對シテ交際ノ方法ヲ変更セサルヲ得ス若又日本ヲ親友国トスルヲ絶念スルニ及テハ百年前英国ニ於テ合衆国トノ交際上ニ施セシ策略ト等シク日本ノ強国トナリテ魯国ノ為メニ英国同盟ノ強国タラシ事ヲ妨害シ日本ヲシテ只英國ノ物産ヲ賣捌ク市場タル歐羅巴州中局外中立国ノ和蘭白耳義瑞西并ニ土耳其格同般ノ国勢ニ制壓シテ之ヲ置カントスルノ策畧ヲ施行スルヲ以テ魯国ノ得意トナスヘキノミ

第五

日本ノ最恐ル、所ハ英國ニアルノ事予案スルニ日本ノ最恐ル、所ハ英國ナルニ英國ハ日本ヨリ僅ニ六日ノ汽船ヲ以テ達スル最上ノ海軍屯集所ト成ルニキ香港ノ所領アリ加フルニ印度及ヒ澳太利ノ地方ニ巨萬ノ富ヲ有シ其要用ナルニ方ワテハ輒チ香港ニ集積スルヲ得又此地ヲシテ當国ニ對シ攻撃ノ本管トナサシハ一疑タルヤ大ニ其理アリ何ニトナレハ則チ英國ト其他各国トノ商貿易上関

係ノ便利少ナカラス而シテ日本ト各国トノ貿易上ニ於テハ常ニ英国ニ劣ルカ為メニ敢テ日本ニ助カスル国ハ無カルヘシ仮令合衆国ト虽モ英国トノ交際ヲ破ルヲ嫌フテ相果サ、ルヘシ抑合衆国ト英国トノ貿易ニ於ルヤ其结交実ニ厚ク殊ニ亞未利加国ハ非常ニ経費ノ厭ヲノ風習ノレハ相当ノ償金ヲ受ケ難キ戦闘ヲ起シテ莫大ノ費用ヲ出スハ必恐ル、ナルヘシ故ニ日本ノ為メ兵備シタル兼涉国中阿ニ居テ他ノ事ニ涉ルヲ得ニニハ一朝日本ニ對シテ攻撃ノ用意スルニ

当リ米國ト英國トノ間ニ生スル争論等ノ如キ非常ノ変事アルニアラサレハ焉ヲ能ク此助力ヲ得ヘケンヤ而シテ其時機ニ際シテハ英國ニ於テ日本トノ戦闘ヲ避ケントスルノミナラス其争戦ヲ遅延シテ日本國ノ局外中立ヲラシメ需ムルハ彼ノ國ノ以テ益トナス所タルヘシ佛國ハ当今ノ形勢ニ因レハ日本ニ助カズ為シ得ヘキトハ思考シ難シ又獨逸國ハ東洋中海軍所無ク自國ニ於テモ亦殆シト海軍ヲ有セサルモノト謂ハシモ可ナリ故ニ他ノ方法ヲ以テ朋友

大藏省

大 新 省
国ノ保護ヲ為サレトスルに戦争ニ於テハ格別
ノ助カヲ為ス事能ハス然リ而シテ魯国ハ亦
其国ノ利益トナルノ時至ラサレハ双方ニ左祖
ヲ為スヘカラス 但次章第五十一
葉ヲ見ルヘシ
今コ、ニ英国ハ日本ノ国事ニ就テ蓋シ兼涉ヲ
為スヘキノ原縁ヲ説明スヘシ
英国、機関并ニ石炭坑ヨリシテ省減シタル職
人五億萬人ノ勤カヲ当時一國ニテ引受タリ其
勤カノ高タルヤ「マルキス、オフ、ウラセルト」
人蒸氣カヲ試験シ居タル時代并ニ「千ヤルレス」
人名

第二世英国ノ王位

千八百七十二年「フ井ラデルフ井ヤ」地名ノ「カレ」
氏著シタル「ユニテイ、オフ、ロウ」書名等ノ書ヲ
見ルヘシ談書中「カレ」氏曰ク今日人カヲ生
スルニ用ユル石炭ハ凡三億萬人ノ力ニ等シ
ク此外ニ船舶五百萬トシ「レ」ヲ運轉スルニ用ユ
ル風カアリ且鉄道并ニ蒸氣車ニテ得ル所ノ
引カアリ又時間并ニ場所ヲ省畧スル電信機
アリ依テ方今用ユル種々ノ器械ノ發明ニ
人カノ利用ニ於テ此計算ニ必ス相違ナカレ

大 新 省

ヘント記載アリ

ニアリシ時代ニハ全世界ノ人民ニテ為ニ得
キ勤カヨリモ其高多シ而シテ英国ハ年々此景
状ニテ生スル所ノ莫太ノ製造物ヲレテ領地内
ニテ耗消スヘカヲシル人民ヲ有セサルカ故ニ
他国ニ於テ其賣捌キ場所ヲ仰カサルヲ得ス若
此賣捌所ヲ見出サ、レハ小島ニ群集セル三千
六百萬人ノ人民餓死ニ至ルヘシ是以テ英国ニ
テハ此人民ヲ保護セシカ為貿易品トナルヘキ
他国ノ物品産出ノカヲ減セシト欲シテ其蕃殖

ニ向フヲ防制セシトニ尽カセリ

次ノ表ハ千八百六十年中英国領地ノ廣狹及
ヒ人口ヲ表出スルモノナリ

地坪	三十一万百四十三方 英国ノ領地ヲ悉皆合計スルハ 百五十三万五千五百五十方里ナリ
人口	二千七百七十八万四千 英国屬地總体合計ヲ為スルハ 二億千五百萬人ナリ

亞細亞州ニ於テ
カニ千レ湾ハルガ
東海岸セ

ヘカラカハルヲ口実トシテ豫メ戦書ヲ送ラヌ以
テ土耳其國ヨリ「¹」島ヲ奪掠シ且炮勢ヲ假
テ印度ノ鴉片ヲ支那ニ強賣スルヲ見タリ
鴉片ノ事ニ就テハ實ニ意外ノ事アリ印度ヨ
リ支那ニ輸出スル鴉片ヨリ生スル利益ハ印
度政府一般ノ入費ヲ畧償フニ足りテ年々六
千萬弗ニ至レリ既ニ千八百七十二年中ニハ
其價三千八百五十二萬三千百十五テールナリ
上海千八百七十三年四月三十日附税関監督
長ノ會ニテ上板シタル貿易表ヲ見ルヘシ

イールランド¹國人ナル「¹」ハルト氏ヲ税関ノ監督
長トシ其部下ニ附屬セシムル外國人三百名其
内英人三分ノ二アリ而シテ轉免ノ權ハ其長官
ノ意ニ在リ此人負ノ内一ヶ年一万五千弗ノ高
給ヲ受取ルモノアリ此等ノ人ハ外國貿易上ヨ
リ支那ニ納入スル税銀ヲ集メ或ハ燈臺建築或
ハ外國關係ノ政事ニ助カスルナリ故ニ英國ハ
我領地内ニ於テ有スルト等シキ威權ヲ張リ且
同國ノ物産ヲ發賣スルニ最モ適宜ナル開市場
ヲ有スルト云フヘシ

去ル此二百年間ニ印度澳太利及「ニウジール
ド」ヲ略取セリ且合衆國ヲシテ充分開化ノ域ニ
進歩セシメハ早晚必大敵トナルニキヲ知り其
未タ盛大ニ至ラサル五十年前豫メ中間ヨリ分
離シテ其成長ノ基礎ヲ堅固セシメン「ニカ」ヲ
尽セリ此策略ハ其突起人ニシテ學名高ク當時
カナタノ令尹タリシモノ、書翰ニ於テ之ヲ知
レリ此人ハ千八百六十一年ヨリ千八百六十五
年マテ英國ノ人民南部ノ譏負ヲ助ケ賣奴ノ論
ヲ保護シテ同國中ニ戦鬪ヲ生セシメ殆ト其月

途ヲ達セントスル期ニ至リシト尋シキ企奉ヲ
千八百九年中行ハントセリ此人ノ策ハ亞米利
加南北ノ間ニ忌憚ヲ生シ自然分裂ヲ促スノ種
ヲ播シ而シテ其歴史中ニ前年ノ事アリテ佛國
ヲ貴重スルノ念慮亞米利加人ニ固着シタル一
愛心ヲ消滅セシメン事ヲ英國ニ忠告セリ若此
事成就セハ大洋中英國ニ比スヘキモノアラス
尋テ北部國亞航海人ヲ擅ニ制禦スルニ於テ防障
ヲ為スモノ無ク南部國米開墾人ト雖モ亦英國ニ
テ輸出ヲ禁スルヲ以テ適宜トナス片ハ何時ニ

大藏省

ヲ英国ノ版図ニ入レシハ現ニ近来ノ事ナリ彼
令ハ彼レ自国ノ人民赤子ト虽モ其手ニテハ良
キ接遇ヲ受クルヲ得ス又彼国ノ製造品ヲ發賣
スヘキ好市場アルモ尙自国所領内ニ物産ノ
繁殖并ニ利用ノ種藝盛大ニ至ルヲ妨クルナリ
故ニカナタハ自然ノ物産ニ於テ最モ富ムル
モ製造物ニ至テハ英国ノ為メニ其盛大ニ及フ
ヲ防止セラハ、ニ因テ自国ニ居テ其産ニ就ク
ヲ能ハス更ニ活業ヲ需メシカ多毎冬數千人カ
ナタ^レ地方ヲ去リテ合衆國ニ移住スルナリ

英国ハロ^ロニド^ニリ^リウル^ルパ^ルル^ル及ヒ^ヒメ^メニ^ニキ^キエ
スト^トル^ルニ利益ヲ移サントシ印度ニ於テ防止ハ
方規ヲ設ケ徒ラニ尽カセシ後種々ノ原由アリ
テ終ニ事成ラスシテ只印度物産ノ繁殖ヲ止メ
タリ且此物産ヲ再ヒ起サシニハ保護稅則ヲ設
ケサルヲ得スト屢ロ^ロニド^ニシ^シタイ^イム^ムス^ス新聞ニ記
載セリ澳太利領ニアル人民ハ此保護ヲ待ツニ
倦ミ且大國政權ノ下ニアリテハ物産蕃殖ノ期
ヲキヲ慮リ本国ノ手ヲ離レシトスルノ
思考ヲ起セリ蓋シ此人民無意ノ歸

スル所ニ出ツレハ早晚此思考ヲ熟議シ之ヲ実
 地ニ施サントスルノ日ハ恐ク遠カラサルヘ
 予此各所ニ於テ英国ノ為シタル事跡ヲ觀テ之
 ヲ考ヘ今同国ノ日本ニ對シテ亦其目途ヲ達セ
 ニトスルニ尽カスヘカラレトヲ恐ル其謂ハ金
 銀ヲ高利ニ貸附ケ日本ヲ細羅セントシ又内地
 肝要ナル鉄道ノ事ニ關係シ米國（後世迄彼レカ名）ニミストルビ
 ンガハ（後世迄彼レカ名）氏ヲ除クノ外下ノ関
 償金拂方ノ督促其他封建ノ制度廢止ノ後ハ外
 国人危害ハ既ニ過キ去リト雖モ英国旧公使

シル、ロツドルフアルトアルエウツル氏ノ承認ヲ以テ
 同国水師提督ト長州侯ト取結ヒタル也。式ノ約
 定即下ノ関ニ炮臺ヲ建築スルヲ禁制セシ約書
 ヲ施行セント欲シ日本トノ交際上ニ於テ自己
 專擅ノ方法ヲ設ケレトシテ他国ノ外国公使ヲ
 説得シ且国地ニ耻辱ヲ興フル莫太ノ入費タル
 横濱ノ屯營ハ既ニ佛國ニテハ之ヲ廢止スルヲ
 承諾スル後ト雖モ尚彼國ニ於テハ徒ラニ兵士
 ヲ滞留セシムル等ノ事アリ英國ノ勉力（但彼レ
 カ失望）
 スル所ナリ我輩希望ハ東洋銀行ノ出店ニ等シク工

部ノ諸局ニ擴充セリ曩ニ東洋銀行ニ於テ日本
ニ貸金ヲ為セシ上ハ其保護ノモノ、給料拂方
等ニ於ケル最モ利益アル方法ヲ以テ其金額ノ
再ヒ金庫ニ歸リ来ルヲ欲スルハ自然ノ理ナリ
件ノ保護ノ者トハ鉄道請負人諸課長機関方書
記其他ノ者ヲ云フ各自ラ永年同日本ト嚴重ノ
盟約ヲ結ビ就中一ケ年三萬六千弗ノ給料ヲ受
ル^ル其給料ノ内日本ニテ耗費スルモノハ些少ニ
シテ概テ其金額ヲ以テ英國ニ送致スル之同国
ノ鉄道製造人機関方大炮製造人及ヒ甲鉄艦製

造人等ニ拂フヘキ金銀モ亦夥シ故ニ年々公債
ノ高利ヲ除クノ外ニ機関ノ賣渡シニ因テ現在
英國ノ受取ル所ハ此公債ノ内ヨリ三割或ハ四
割ナルヘシ而メ為替及ヒ世話料等ニテ亦六分
或ハ七分ヲ得ヘケレハ實ニ最上ノ利益アル高
法ト謂フヘシ
一國ヨリ他國ニ貸金ヲ為ス利銀ノ歩合ヲ以テ
考フルニ前書ノ形状ハ貸附タル元金ノ五割ヨ
リ少カラサルモノトス千八百七十年中^ウキリ
キリ^メノ^ル新ニ日本ニアリテ真ニ利益ヲ有

スル国ハ只英国ノミ他国ニ於テ種々術策ヲ施
 シントモルハ英国ニ於テ笑止ニ絶ヘス且他国
 ニテ江戸府ニ在留公使ヲ置クカ悉メニ費ス失
 費ハ小児ノ戯ニ等シク只英国ヲ妬ムノ心ヨリ
 費スナリ且英国ニテ設ケタル方法ヲ以テ日本
 ヲ導引スヘキハ獨リ英国ノミナレハ彼令他国
 ニテ此ニ尽カスルトモ敢テ功ヲ奏スル能ハス
 ト右新聞中ニ腹藏ナク吐露セシハ實ニ当然理
 ナリ
 予以為ラク此情実ヲ以テ此指揮ヲ受クルハ

日本ノ為メ帝ニ金銀ヲ費スノミナラス自由ノ
 権利ヲモ失フヘシ若シ日本ニテ真ニ英國ノ精
 揮ヲ受ケント決定セハ速ニ其実情ヲ吐露シ苦
 難ノ遠慮ヲ経スレテ運命ニ任セ国旗ヲ卸シ印
 度ノ如ク英國ヨリ奴隷ノ接遇ヲ受クルニ如ク
 ハナシ
 ロルトマニール曰ク印度ニ於テ英國ノ政
 務ヲ誤ルヤ既ニ人間交際ノ道殆ント絶ユヘ
 キノ極ニ至レリ政府ハ土民ヲシテ強テ物品
 ヲ高價ニ買ハシメ而シテ之ヲ廉價ニ賣ラシ

ム加之土地ノ裁判官巡查及ヒ長官等罪過無クシテ辱ヲ受ケ後テ日ナラス廣大ノ物貨ヲシテ「カルキユツタ」ニ輻湊セシム三千万人ノ人民困難ノ極ニ至レリ此土民ニ於テ常ニ自國ノ為メ暴虐ノ政ニ苦シムト虽モ豈敢テ斯ノ如キ苛刻ニ至ラシヤ蓋シ土民ノ見ル所ニテハ印度社中譯者ノ注則チ印度政府ナリノ小指トスラビヤトウラ譯者曰譬ナルハノ腰ヨリモ厚ク思フハ此旧主ノ政ニ於テハ彼等尚一種ノ物ニテ有セリ土民曾テ困窮ニ堪ヘサルモノアルカ

為メニ一同奮起シ一タヒ印度政府ヲ廢棄セリ然リト虽モ英國政府ノ敢テ動カスヘカラスハ所以ノモノハ他ナシ同國政府ハ野蠻壓制ノ政事ニ於テハ實ニ其極ニ至ルト虽モ亦開化ノ盛ナルニ於テ其權勢ヲ有セリ故ニ英國政府ヲ指シテ人間中苛刻ノ政府ト謂ハシヨリ寧ロ虎狼ノ政府ニ似タリト謂ハシノム

第六

治法ノ事

前各ノ如キ眼前ニ危難ノアル限リハ日本ニ於
テ即今真ノ目途トスル所一系ノ皇統ヲ尊崇
シ且之ヲ愛護スルヲ一大基礎トシ国内ノ才能英智
ヲ萃ツテ近臣トシ此四五年以前ヨリ大膽ニモ
企テタル改革及ヒ改教一途ノ偉業ヲ漸次奏功
コレトスルノ主意ヲ終始目的トシテ政府ヲ強
且盛ニスルヲ以テ上策ナリトス此目途ヲ以テ
進歩スル片ハ日一日ニ開明且富強ト成リ而シ
テ漸々諸政羅巴政府及ヒ亞米利加政府ヲシテ
獨立且自由ノ權理ヲ以テ全ク萬國公法ノ基本

ニ隨ヒ日本トノ交際ヲ為サレハルニ至ルハ
且此目途ニテ開明ノ域ニ至ル時ハ今日高聲ニ
テ信友ト唱ヘタル國々ニ於テ屢拒ミタル兄弟
國々一國トシテ日本ニ受クヘキ尊敬ヲ其國々
ニ迫リテ為サレハルヲ得ルニ至ルハ此時ニ
當ツテハ日本敢テ魯國ヲ憂フル所以ノモノナ
キノミナラス亞細亞洲中西國ノ利益ヲ保有シ
且兩國ノ威カヲ廣ムルニ兩國合併ノ兵備切用
ト為ル片ハ却テ同國ノ助カヲモ亦豫算スルニ
足ルハ何トナレハ地勢ニ因テ之ヲ觀ルニ恰

日本ハ恰

カモ 亞米利加洲大陸ノ東隣合衆国ノ地勢ニ於
タルト等ニキ地位ニアルハナリ

斯ノ如キ類ノ同盟ハ屢其例アリルユイ之ヲ第ナ

四世王^佛ノ時代以来佛国改事家ノ説ニ因レハ

亞米利加洲ニテ英国領ノモノニ自由ヲ許スハ

曰自由ヲ許ストハ佛国ニ於テ^{亞米利加ニ}領民常ニ英^{領地}

依テ^佛國ニテ^之ノ^外充^分勢^ヲ振^テ能^ハス^佛

國ノ威權ヲ増シ英国ト抗敵ス、キ一ノ海軍盛

大ノ國ヲ起スノ方略ニシテ英国ノ衰弱スルノ

基本ナルヘシト此思考ヲ以テ^ウルセ^ル地

政府^佛ニテカナダ^地ヲ輒^テ讓渡ス事ヲ決意セ

リカナダ^地ヲ英国ニ讓ルハ是迄英ノ本国ニ助ヲ

乞ハサルヲ得サリニ隣國亞米利加領ノ者ニ自

由ヲ許セルナリ是レ則独立ヲ急キ且迫ルト等

ニキナリ佛国ノ所領ヲ英国ニ讓渡スニ於テ

祝スルニ當リ終ニハ亦佛国ノモノナル

ヘシト^テシヨハソ^ル氏^カ云^ヒシハ皆人ノ知

ル所ナリ其後第一等^コニシユ^ルナボ^レオ^レシ^テ

其意ノ如クナラス英国ノ血盛ナルニ至ルヲ見

テ合衆国ニ^ルイ^シヤ^ナテ^テ讓^ル事ニ決意セリ

其時ノ語ニ曰ク若シ貿易及ヒ航海ノ権カラシ
一ヶ国ノミノ権内ニアラシメハ世界全国速
ニ彼国ニ征服セラハ、ニ至ルヘシ何トナシハ
此国民ニ於テハ金銀ヲ以テ他国ノ陸軍ヲ所有
スルノ権ヲ有スレハ終ニ抵抗シ難キニ至ルヘ
シ若シ世界ノ為メニ英國貿易ノ同ニ生スル暴
虐ヲ防制セニハ他日英國ノ抗敵トナルヘキ
海軍ヲ有スル国カラ以テ抵抗セシムル事肝要
ナリ而シテ此目途ヲ達シヘキモノハ蓋シ合衆
国ナラヘシ英國ハ世界ノ富ヲ吸入セシトス若

シ英國ノ既ニ亞細亞洲ニ或ヲ振フカ如ク亞米
利加洲ニ於テ威ヲ振ハントスルヲ防キ得ハ予
ハ全世界ノ為メ益ヲ為スト云フヘシト而シテ
千八百三年ノ條約ニテ此時「リイシヤナ」ト称
シ一方ハ「リス」ツピ「界」トシ他一方ハ「火平
洋」ニ接シタル廣大ノ土地ヲ合衆国ニ讓渡ヲ約
セリ合衆国ノ所領一倍スルハ是レ之ニ由レリ
此條約ヲ調印ノ時「ボナバル」テ曰ク此土地ノ讓
渡シハ合衆国ノ権力ヲ世堅固ニシ而メ英國
ニ海軍抵抗ノ敵ヲ與ヘタレハ早晚同国ノ驕慢

ヲ折クノ時至ルヘシ上此讓渡シニ付「テイエルス」
氏ノ記スル所實ニ模範ナルサナカラス第一
等「ゴシユル」官名其執政ノ一人ニ對シテ曰ク後
日亞米利加ト混雜ヲ醸スヘキ或ハ兩國間ニ薄
情ヲ招クヘキ所領ヲ保有スルヲ欲セス却テ是
レヲ以テ我國ニ合衆ヲシテ厚情ヲ結ハシム
ルノ原種ニ用ヒ英國ト同國トノ間ヲシテ不知
ニ為サシメ而シテ他日我ヨリ復讐セサレハ彼
レ英國ヨリ報仇ヲ受ヘキ歎ニ預備スヘシ予既
ニ意ヲ決シタルハ「ルイシヤナ」ヲ合衆國但千

三年ノニ讓ルヘシト是ニ於テ合衆國ハ幸ヒニ
事ナリニ讓ルヘシト是ニ於テ合衆國ハ幸ヒニ
英佛トノ長戰ニ時ヲ得全ク獨立ト成リ且其所
領ヲ全備シ今日亞米利加州ニ於テ國威ヲ振フ
ニ至レリ

其後六十九年ノ後至リ「ホナバル」人名先
見初メテ其實ヲ表セリ英國ヨリ合衆國ニ「ア
ラバ」名償金ヲ止ムヲ得ス拂フニ至リテ彼レ
カ驕慢ヲ折クノミナテス從前英國ニ人問
ノ自由ヲ妨クル種々ノ恭勤ヲ為セシカトモ
敢テ受サリシ罰ヲモ亦曩キニ初メテ之ヲ受

ケシナリ

此佛国第一等「コンシエ」ル時代ノ趣意ニ倣フテ
魯西亜ニ於テハ兩ニケ年以前北亜未利加ノ所
領ヲ合衆国ニ賣渡セリ今又此趣向ヲ以テ之ヲ
考フレハ東洋ニ於テ英國ニ抗對スル欲ヲ興ヘ
シトノ目弄ヲ以テ日ヨリ魯国ニ「ア」ニ「ワ」港ヲ
讓渡シ兼テ同所ニ海軍所ヲ建築セシト欲スル
同国ノ望ミニ便益ヲ興フル事ハ日本ノ為メ最
良策ナルヘシ

斯ノ如キノ策ハ若シ魯国ノ威カヲシテ益東洋
中ニ振ハシムルニ至ラハ即チ今英國ニ於ルカ
如ク日本ノ為メ危害ト成ルヘキ恐レアル
ヘシト謂フ人アリ然レモ予ハ此言ヲ信
セス上文ニモ述フルカ如ク英國ニテ其威カヲ
益廣ク擴充セシトスル所ノ根源ハ只彼国ノ製造物
ヲ賣捌クヘキ貿易場並互市場ヲ要スルナリ今
魯西亜ハ之レヲ要セス魯国ハ全ク武備国ニシ
テ今百年モ経過セサレハ自国人民ノ要需ニ充
ル程ノ製造物ヲ産出シ得ヘカラサルヘシ魯
西亜貿易ノ景況ヲ載セタル第七十四葉ノ注ヲ

見ルヘシ

是レヨリ五十年ノ後日本ト魯国トノ貿易交際
上ニ於テ如何ナル形勢ニ立至ルヘキヤハ今日
豫言スヘカラスト魚モ一般ノ形状ヲ推シテ之
ヲ考ヘタル愚案目弄ニ蓋シ誤リ無クシテ且今
日兩國間ニ在存スル双方ノ交通不^耐朽ニ^シ無^ルニ
以上ハ一般人民ノ幸福及ヒ安寧ニ於テ相互ニ
確乎^結ル^ハ日本ト魯国トノ間ヲ措テ又他ニ求
ムヘキモノナシト予カ固ク信スル所ナリ

